

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	微生物学	学年	1年生
講師名	三瓶 泰子	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験(国家試験形式)		
使用機材	救急救命士標準テキスト(へるす出版)、プリント、黒板		
教科 目 標	炎症と感染の説明、炎症の定義・原因、感染症の原因と感染経路が説明できる。		
	感染経路別の感染予防法、標準予防策、消毒、事故後の対応、法律指定の対応を説明できる。		
	予防接種、感染症の一般的症候、感染症の疫学・症候・特徴的疾患・予後について説明できる。		
講 義 内 容	1	炎症	
	2	感染症	
	3	感染予防と感染防御	
	4	救急活動での感染防御	
	5	洗浄と消毒	
	6	感染事故と事故後の対応	
	7	感染症総論	
	8	その他の感染症	
到 達 度 の 把 握	授業の中で、前回の復習等を口頭質問やグループワークで確認する。		
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	豊富な臨床経験をもとに、微生物の基礎知識、救急・医療現場の感染対策について		
	講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	看護学概論	学年	1年生
講師名	三瓶 泰子	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験(国家試験形式)		
使用機材	救急救命士標準テキスト(へるす出版)、プリント、黒板		
教科 目 標	医療における看護の位置づけと役割、在宅療法の概念、種類、対応について説明できる。		
	傷病者とのコミュニケーションの技法、医療機関とのコミュニケーションの要点を説明できる。		
	事故の発生におけるヒューマンエラー、インシデント・アクシデントのハインリッヒの法則を説明できる。		
講 義 内 容	1	接遇とコミュニケーションの種類	
	2	対象に応じたコミュニケーション、救急活動でのインフォームドコンセント	
	3	安全管理と事故対応	
	4	感染予防	
	5	在宅療法とは、在宅療法への対応(HOT, 在宅人工呼吸、気管切開)	
	6	在宅療法への対応(植え込み型ペースメーカー、経管栄養、IHV)	
	7	在宅療法への対応(血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門)	
	8	講義の復習、国家試験の過去問解説、終講試験について	
到 達 度 の 把 握	授業の中で、前回の復習等を口頭質問やグループワークで確認する。		
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	豊富な臨床経験をもとに、看護概論、そして医療従事者としての接遇などについて講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	法医学	学年	1年生
講師名	山口 智佳	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験(国家試験形式)		
使用機材	救急救命士標準テキスト(へるす出版)、身近な法医学(南山堂、塩野寛、清水恵子 著)		
教科 目 標	法医学の知識、異常死体の検案・解剖、死体の尊厳、適切な法的処置を理解する。		
講 義 内 容	1	法医学の役割	
	2	死亡診断書	
	3	死体现象のみかた	
	4	自為か他為か、死因の決定	
	5	日常生活に密着した外因死と内因死	
	6	中毒	
	7	個人識別、親子識別	
	8	医師と法律、最近注目されている医療行為	
	到 達 度 の 把 握	授業の中で、前回の復習等を口頭質問やグループワークで確認する。	
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	法医学者として北海道の法医学を支えてきた豊富な経験をもとに、救急現場での死体现象の観察だけでなく、死者の尊厳や背景にある社会的問題などについて講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	患者搬送	学年	1年生
講師名	中田 敏宏	単位数	1 (15時間)
評価方法	終講試験(国家試験形式)		
使用機材	救急救命士標準テキスト(へるす出版)、プリント、黒板		
教科 目 標	通信指令室の役割、口頭指導の概念・方法、活動記録、他機関との連携について説明できる。		
	病院前救護の役割、概要、救急救命士の医療関係職種としての責任を説明できる。		
	出勤～現場の流れ、状況・初期評価、現場～救急自動車収容・医療機関収容の搬送方法を理解する		
講 義 内 容	1	消防機関における救急活動の流れ	
	2	救急救命士の役割と責任	
	3	現場活動の基本	
	4	搬送総論	
	5	搬送方法	
	6	器具を用いた搬送	
	7	搬送手順	
	8	ヘリコプターへの傷病者の搬入と搬出、事故車両からの救出方法	
到 達 度 の 把 握	授業の中で、前回の復習等を口頭質問やグループワークで確認する。		
そ の 他	【担当教員の実務経験等】		
	救急隊員・救急救命士としての豊富な現場経験をもとに、消防機関での救急活動を中心に、 様々な活動・搬送等を学ぶ。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	処置論 I	開講学年	1年
講師名	中田敏宏・池田淳也・工藤朝生・境純平	単位数	6 (90時間)
評価方法	筆記試験(各講師割り当て講義終了後に全範囲分実施)		
使用機材	プロジェクター・パソコン・その他(基本的に資料配布・板書)、 ほぼ毎回・時々		
教科 目標	救急現場での使用資機材の基本操作・使用方法を理解する。		
	資機材の使用方法から現場での対応能力を向上させることができる。		
	誤った使用方法による傷病者への侵襲を理解し現場での事故防止策を各自で練ることができる。		
講 義 内 容	1	パルスオキシメータ	
	2 ~ 3	カプノメータ	
	4	聴診器	
	5	血圧計	
	6 ~ 7	心電図モニター	
	8	体温計	
	9 ~ 10	気道確保	
	11 ~ 12	気道異物除去	
	13	口腔内の吸引	
	14 ~ 15	声門上気道デバイスを用いた気道確保	
	16 ~ 18	気管挿管	
	19	気管吸引	
	20 ~ 21	酸素投与	
	22 ~ 23	人工呼吸	
	24 ~ 25	胸骨圧迫	
	26	自動式心マッサージ器の使用	
	27 ~ 28	除細動	
	29 ~ 30	静脈路確保と輸液	
	31 ~ 32	アドレナリン投与	
	33	自己注射用アドレナリンの投与	
	34 ~ 35	体位管理	
	36	体温管理	
	37 ~ 38	止血	
39 ~ 40	創傷処置		
41 ~ 43	固定		
44 ~ 45	産婦人科領域の処置		
到達度の把握	毎回の講義の最初に前回の講義内容のおさらい(学生に答えてもらう)		
その他	【担当教員の実務経験等】 救急隊員・救急救命士としての豊富な経験をもとに、救急救命処置の基礎から実践的知識について講義を展開する。		

＜令和4年度 救急救命士学科 シラバス＞

科目名	救急・災害医療	学年	1年生	
講師名	青野 允	単位数	1 (15時間)	
評価方法	終講試験(国家試験形式)			
使用機材	救急救命士標準テキスト(へるす出版)、プロジェクター、黒板			
教科 目 標	わが国における救急自動車による救急搬送の現状、概要の理解。			
	救急医療機関の役割と要件の理解。			
	災害の定義、分類の理解。			
講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前医療)		
	2	救急医療体制(救急医療システム、救急医療情報)		
	3	災害医療体制(トリアージ、)		
	4	災害医療体制(大規模災害、特殊災害)		
	5	病院前医療体制(救命の連鎖、市民による一次救命処置)		
	6	病院前医療体制(市民教育、メディカルコントロール)		
	7	救急救命士に関する法令		
	8	救急救命士の養成と生涯教育		
到 達 度 の 把 握	授業の中で、前回の復習等を口頭質問やグループワークで確認する。			
そ の 他	【担当教員の実務経験等】			
	日本の救急・災害医療を支えてきた医師による講義。豊富な臨床経験・研究にもとづき、			
	我が国の救急・災害医療の変遷、現状、課題について幅広く講義を展開する。			